

誰もが抱える悩みをパパッと解決！

福田貴一先生の 福が来るアドバイス



早稲田アカデミー
教育事業本部副本部長
福田 貴一

毎年12月になると、辞書・事典の出版で知られる三省堂が「三省堂 辞書を編む人が選ぶ『今年の新語』」を発表しています。その年に「よく見た」「よく聞いた」言葉を一般から広く募り、辞書を編む専門家が選考委員となつてそれらのなかからベスト10を選定する、というものです。2024年の大賞は「言語化」という言葉でした。今回は、この「言語化」について書かせていただきます。

「言語化」と「表現力」

「言語化」は新語？

2024年の「今年の新語」大賞に「言語化」が選ばれたと知ったときには、少し驚きました。「言語化」って、新しい言葉なのだろうか？と思ったのです。三省堂のホームページを見ると、「今年の新語」はあくまでその年に「よく見た」「よく聞いた」言葉で、「その年に生まれた言葉」でなくてもよいようです。ただ、その言葉や現在主に使われている意味（用法）が、これまで辞書に掲載されていないものが対象になっているようでした。確かに、最近さまざまな場面で「言語化」という言葉を聞くことが増えたように思います。

余談ですが、三省堂の辞書には、私も大変お世話になっていました。岩波書店の『広辞苑』

も持っていたのですが、比較的手ごろに使えるものとして、三省堂の『新明解国語辞典』をいつも机の上に置いていました。その辞書を編んでいる方たちが選んだ「今年の新語」の大賞が「言語化」であるというところに、面白さを感じるとともに、今の社会を象徴しているような印象を持ちました。

「化・的・性・然」

これまでの辞書には、「言語」という語は載っていても、「言語化」は載っていませんでした。その理由は、「○○化」という接尾語が付いてきた派生語だからだと考えられます。

小学校で熟語の学習をするときに教わるのが、「化・的・性・然」という接尾語です。特に「化・的・性」については、低学年から中学年の国語

「言語化」とは何か

文部科学省が発表している「学力の三要素」のなかに、「思考力・判断力・表現力」という項目があります。「学力の三要素」は、これらの社会で活躍するために必要な力として定められているものです。確かに、「表現力」はこれからますます大切な力になってくるでしょう。多様化する社会のなかで、お互いを尊重しながら協働していくためには、円滑なコミュニケーションが必要になるでしょう。そのために「表現力」は不可欠だと考えています。

その「表現力」の要素の一つに当たるのが、「言語化」の力ではないでしょうか。「言語化」とは、簡潔に言えば、「よりわかりやすい言葉で簡潔明瞭に伝えること」です。もちろん、「わかりやすい言葉」といっても、「文章による表現」と「発話による表現」では方向性が少し違ってきます。また、自分の考えや感情を相手に伝えるのが「表現力」であると考えれば、そこには「言語」以外の「表情」や「身振り手振り」などの要素も含まれます。ただ、「言語化」の力が、

「表現力」の大きな部分を占めているのは間違いないといえるでしょう。

「言語化」のために必要なこと①

～相手を意識する～

では、「言語化」の力を高めるためには、どのようなポイントがあるでしょうか。

私は、「言語化」の最も大きな目的は「伝えたいことが、相手に伝わる」ことだと考えています。当たり前のことのようにですが、意外にそれが難しいのではないのでしょうか。自分では、自分の考えや感情は理解できていますから、それを言葉にすることはできます。それが「言語化」だと考えている方もいるかもしれませんが、しかし、それだけでは「相手に適切に伝わる」とは限りません。読んだり、聞いたりする相手が正確に理解するためには、相手に合わせた言葉を選ぶことが必要になるはずです。つまり、「相手のことを考えて「言語化」する」というのが、大きなポイントになってくると感じます。

「言語化」のために必要なこと②

～語彙を増やす～

また、そもそもの語彙が少なければ、伝えたいことを「言語化」するのは難しくなります。自分のなかに蓄積している言葉のなから、最適な言葉を取捨選択するわけですから、語彙力は当然必要です。中学入試問題でも記述問題で問われる力です。

知識問題としても、次のような形式でよく出題されます。

- ① 地球全体で、温暖（ ）が進んでいる。
- ② 運動会の練習に意欲（ ）に取り組んでいる。
- ③ 子どもたちには無限の可能性（ ）が秘められている。

なお、「然」については、小学生にとって一般的な言葉は少ないかもしれませんが。強いて挙げれば「紳士然とした振る舞い」というような表現でしょうか。

これらの「接尾語」が付いた熟語については、よほど普及しているものでなければ、辞書に収録されることはないようです。実際に「新明解国語辞典」を調べてみたところ、「高齢化」は載っていましたが、「民主化」は載っていませんでした。

例えば、「遊園地で迷子になった子どもが感じていた気持ち」を問われる問題があったとします。「不安で、寂しくて、少し怖さも感じていて……」といった解答を書く生徒が多いのですが、そういった感情をもっと簡潔に表す言葉もあるはずです。「心細い」という言葉が適切でしょうか。ただ、一般的な小学生にとっては、「心細い」という言葉は知っていても、自分で使えるレベルの語彙にはなっていないことが多いようです。

ご存じのように、「表現力」は中学入試の国語でも、またそれ以外の科目の記述問題でも問われる力になっています。今回は一般的な「言語化」「表現力」について書かせていただきましたが、お子様の「国語学習」をイメージしながら、考えてみていただければと思います。

福田 貴一の
四つ葉café

公開中!

福田 貴一

中学受験をお考えの小学3・4年生のお子様をお持ちの保護者様のためのブログです。

早稲田アカデミー
教育事業本部
副本部長

著書に『中学受験 身につくチカラ・問われるチカラ』（新星出版社）。ブログでは、学習計画の立て方、やる気の引き出し方、テストの成績の見方、学校情報など、中学入試に関するさまざまなことについて書いています。

詳細はWebをご確認ください。

早稲田アカデミー

検索

左の二次元コードを読み込んでご確認ください

スマートフォンのみ対応